

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-002

PDCA	事務事業名	ごみ処理事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター 管理担当	担当	片岡	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (2) 廃棄物の処理 個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例					
	対象・目的	燃やせるごみは焼却、燃やせないごみは破碎選別等、ごみを適切に処理することで清潔で快適なまちづくりを実現する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	焼却施設及び破碎施設の運転維持管理等を業者に委託し、クリーンセンターへ搬入されたごみを適正に処理する。また、環境分析測定、電気保安管理や施設設備及び場内車輛の点検・修繕等を適切に実施する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①焼却施設で処理したごみ量	34,053	34,705	34,508	トン	
		②					
		③					
		事業費	465,605	471,768	474,933	千円	
		人件費	16,497	14,499	13,540	千円	
		総事業費	482,102	486,267	488,473	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
		①市民1人当たりのごみ処理事業費	4	4	4	千円	
		②					
	③						
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①年度末時点での未処理ごみ量	実績値	440	430	t以下	
			目標値	300	300		
②年度末時点でのピット外仮置きごみ量		実績値			0	t	
		目標値			0		
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地		ある
	事業の評価・課題	B					
		令和元年度は、ごみ処理施設業務委託業者と連携し、施設の適切な維持管理に努めることにより、年度末時点で最終処分場などのピット外へごみを仮置きすることなく処理をすることができた。また、施設補修工事に伴う焼却炉2炉停止期間中には、ごみピットが満杯になったため、今後とも広報活動等によるごみ減量の啓発の継続が必要である。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持				
		令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位
			①年度末時点でのピット外の仮置きごみ量			0	t